

愛知県
災害時外国人支援活動講座開催業務
＜報告書＞



令和4年 3月

目次

1 業務概要	1
2 災害時外国人支援活動講座	2
1) 概要	2
2) 第1部 知識編	6
第1部参加者アンケート 集計結果	10
第1部知識編のまとめ	13
3) 第2部 実践編	14
第2部参加者アンケート 集計結果	16
第2部実践編のまとめ	19
3 今後に向けて	20

1 業務概要

■業務名

災害時外国人支援活動講座開催業務

■業務目的

「あいち多文化共生推進プラン 2022」では『「多文化防災」の推進』を掲げており、言語や文化、国籍のちがいに関わらず、誰もが防災に関心を持ち、災害時には互いに支え合う「多文化防災」を推進することとしている。

そこで、大規模災害時に外国人県民の対応を直接行う市町村職員、国際交流協会職員及びボランティアに対して「多文化防災」への理解を深めるための講座を開催する。

■業務内容

災害時外国人支援活動講座の開催

2 災害時外国人支援活動講座

1) 概要

■趣旨

災害は出身や国籍に関わらず、誰もが経験する可能性があることであり、地域全体で備えを進めることが大切である。愛知県内には多くの外国人住民が暮らしており、地域防災計画の中にも外国人への対応などが記載されるようになった。しかし、避難所での具体的な備えや、外国人対応の訓練などは十分に行われていない。また、東日本大震災以降、外国人は支えられる側だけでなく、支える側にもなることが認識され始めているが、一方で未だに災害ボランティアや避難所運営の担い手として外国人が参加することが想定されていない市町村も多い。

外国人県民を受け入れるためには、日本人県民の意識を変える取り組みが必要である。そこで、県内市町村の災害時の外国人支援体制構築の推進、および、災害時に外国人市民の対応をすることとなる行政職員の「多文化防災」に関する意識向上とスキルアップを目指し、本講座を実施する。昨年度までは災害ボランティアなども対象としていたが、今年度は対象を絞り、対象に合わせて内容を考えることによって、より効果が高い企画をめざした。

■講座の形式、内容

本講座は、ウェブ上で共有された動画を視聴してオンデマンドで学ぶ「第1部 知識編」と、リアルタイムのオンラインワークショップ「第2部 実践編」の2部構成である。*

「第1部 知識編」では、大規模災害時の外国人支援に関する基礎的な知識の理解、および県内外の取り組み事例について知ってもらうことを目指し、5本の講義動画を作成した。さらに、第1部受講後には、自らの所属する地域の外国人住民の状況や、避難所で使用するツールなどを調べ、状況を把握するための課題を課した。

「第2部 実践編」では、第1部でも言及された、外国人支援に役立つツール（災害時多言語表示シート、「やさしい日本語」など）を使う実践ワークを通し、災害時でも活用できるようになることを目指すワークショップを実施した。

*「第2部 実践編」は当初、対面で行う予定だったが、愛知県の新型コロナウイルス感染状況を鑑み、ビデオ会議ツールZoomを用いたオンラインワークショップに変更した。

■対象者

市町村職員(多文化共生・国際交流担当者、防災担当者、消防担当者)

市町国際交流協会職員

市町村社会福祉協議会職員 など

■開催方法

第1部 知識編... オンデマンド講座(Youtube)
1月21日(金)8時～3月3日(木)17時

第2部 実践編... オンラインワークショップ(Zoom)
第1回 2月4日(金)13時30分～15時30分
第2回 3月4日(金)13時30分～15時30分

* 参加方法は「第1部のみの参加」と「第1部と第2部の参加」の2種類を設定した。

* 第2部は当初、第1回は名古屋市、第2回は豊橋市での対面式ワークショップを予定していた。

* 開催方法の変更が申込開始後であったため、第2部実践編第1回の参加申込締切を1月18日から1月28日に変更した。

2021 年度

災害時



外国人支援 活動講座

参加無料

要事前申込・先着順

第1部 オンライン講座 (YouTubeによるオンデマンド配信)

第2部 対面型ワークショップ

西三河会場 2/4(金)13:30~15:30(定員 40 名)

名古屋会場 3/4(金)13:30~15:30(定員 40 名)

※同じ内容ですので、どちらかにご参加ください。



プログラム

※新型コロナウイルスの感染拡大状況により、内容は変更する場合があります。

第1部 知識編 (オンライン講座/約 150 分) [配信期間: 1/21(金)10 時~3/3(木)17 時]

○「大規模災害時の外国人支援に関する基礎知識」

／講師: 一般財団法人ダイバーシティ研究所 代表理事 田村太郎氏

内容: 過去の災害からみる現在の課題、支援の担い手としての外国人 (防災リーダー養成)

災害時多言語表示シート等各種支援ツールの活用、コロナ禍における避難所運営

○『多文化防災ガイド』の活用の仕方/多文化防災ネットワーク愛知・名古屋

○「愛知県災害多言語支援センター」について/講師: 愛知県 多文化共生推進室

○事例紹介 外国人防災リーダーの養成について (岡山県総社市)

災害時外国人支援ボランティア講座の取組など (小牧市・小牧市国際交流協会)

※動画は項目ごとに分かれていますので、少しずつ視聴していただけます。

第2部 実践編 (対面型ワークショップ/120 分)

○ワークショップ/講師: 多文化防災ネットワーク愛知・名古屋

実際に災害が起きた時を想定し、外国人被災者への対応方法や、情報の周知のポイントを学びます。

・「多言語表示シート」の作成実践 (避難所での食料配布などの注意事項について)

・「やさしい日本語」と翻訳機器の活用実践 (避難所受付対応など)

※ご自身のスマートフォンのアプリや翻訳機器を使って、実践を行います。

対象

市町村職員（多文化共生・国際交流担当者、防災担当者、
消防担当者）、市町国際交流協会職員、市町村社会福祉協
議会職員など



▲2019年度の講座の様子

注意事項

[第1部]

- 第1部は、期間中に各自で YouTube に公開された講義動画を視聴していただく方法で実施します。
- 講義動画の URL は、各会場の申込期限以降に、申込者にメール等にてお知らせします。
- 第1部において、研修課題を提示します。第2部までに各自で取り組んでください。

[第2部]

- 会場内ではマスクの着用をお願いします。また、会場内に消毒液を設置しますので、手指消毒にご協力ください。
- 入口で検温を実施します。37.5度以上の発熱が確認された方、または体調がすぐれない方は、参加をお断りする場合があります。発熱などの風邪症状がある場合には、参加をお控えください。
- 新型コロナウイルスの感染拡大の状況により、第2部もオンラインでの開催となる場合があります。また、プログラムの内容を変更する場合があります。あらかじめご了承ください。変更する場合には、愛知県 Web ページやメール等にてお知らせします。

会場アクセス

西三河会場：2/4(金)

県西三河総合庁舎 7 階
701 会議室

(岡崎市明大寺本町 1-4)

名鉄「東岡崎」駅から徒歩 5 分

申込期限：1/21(金)



名古屋会場：3/4(金)

県三の丸庁舎 2 階 あいち

国際プラザ アイリスルーム

(名古屋市中区三の丸二丁目 6-1)

地下鉄名城線「市役所」駅から徒歩 5 分

申込期限：2/18(金)



申込み／問合せ

- 愛知県 Web ページの講座専用ページ（右の QR コード）から、申込みサイトにアクセスし、指定事項を記入して申込んでください。Web 申込みが難しい方は、以下を明記の上、メール、FAX 又は電話でお申込みください。

①お名前 ②所属・職名 ③電話番号 ④メールアドレス ⑤参加希望会場

- 参加申込みは先着順で受け付けます。第1部のオンライン講座のみの参加も可能です（第1部のみの参加者の申込期限：2/18（金））。



愛知県 県民文化局 県民生活部 社会活動推進課 多文化共生推進室

Tel：052-954-6138 FAX：052-971-8736 E-mail：tabunka@pref.aichi.lg.jp

企画運営：多文化防災ネットワーク愛知・名古屋（TABO ネット）

2)第1部 知識編

■受講可能期間

令和4年1月21日(金)8時～3月3日(木)17時

■受講方法

参加者に講義動画のURLが掲載された特別公開ページを知らせ、各自都合のよい時間にアクセスして視聴する。視聴後には研修課題に取り組む。

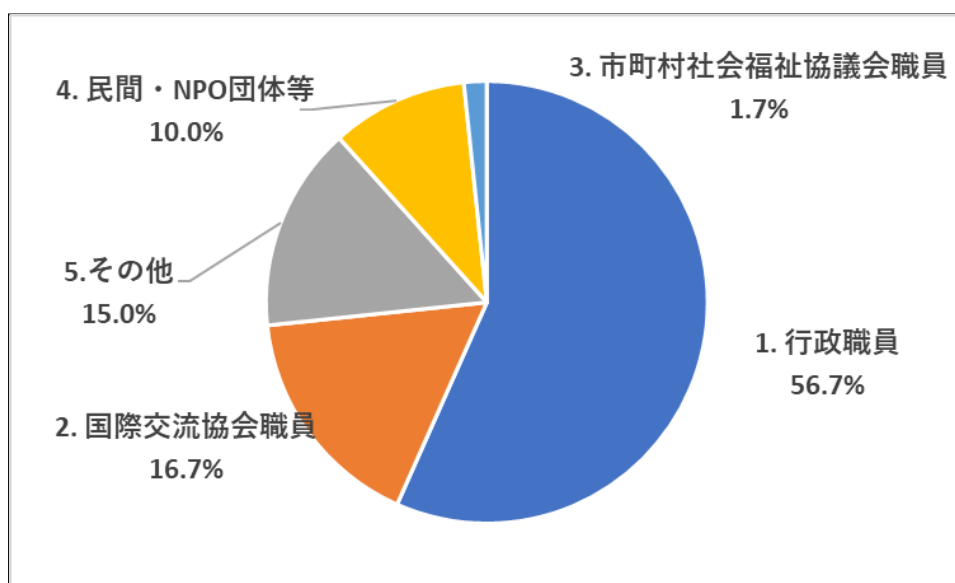
■参加申込者

60名(うち、第1部のみの申込者は28名)

[申込者内訳]

分類	人数	割合
1. 行政職員	35	58.3%
2. 国際交流協会職員	10	16.7%
3. 市町村社会福祉協議会職員	1	1.7%
4. 民間・NPO団体等	5	8.3%
5.その他	9	15.0%

* その他内訳…大学関係者、病院関係者、日本語学校関係者、個人



■プログラム

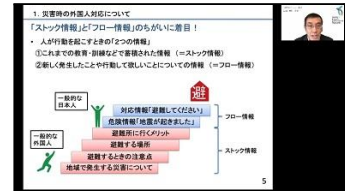
・講義動画1(1時間14秒)

タイトル:大規模災害時の外国人支援に関する基礎知識

講師 : (一財)ダイバーシティ研究所

代表理事 田村太郎氏

再生回数:112回



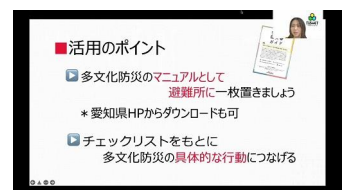
・講義動画2(12分37秒)

タイトル:『多文化防災ガイド』の活用の仕方

講師 : 多文化防災ネットワーク愛知・名古屋

(TABOネット) 長尾晴香氏

再生回数:76回



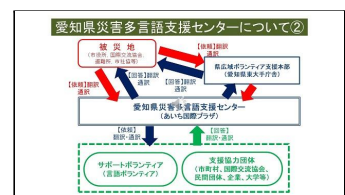
・講義動画3(12分57秒)

タイトル:「愛知県災害多言語支援センター」について

講師 : 愛知県社会活動推進課 多文化共生推進室

室長補佐 太田美代子氏

再生回数:66回



・講義動画4(27分2秒)

タイトル:外国人防災リーダーの養成について

報告者 : 総社市役所市民生活部 人権・まちづくり課

国際交流推進員係

主事 譚 俊偉氏

再生回数:60回



・講義動画5(26分47秒)

タイトル:災害時外国人支援ボランティア講座の取り組み

み／多言語翻訳サポーター講座について

報告者 : 小牧市多文化共生推進室・小牧市国際交流協

会

再生回数:63回

関係団体	小牧市国際交流協会	愛知県国際交流協会	小牧市国際交流協会	小牧市国際交流協会
2018年度	国際交流推進員	国際交流推進員	国際交流推進員	国際交流推進員
2019年度	国際交流推進員	国際交流推進員	国際交流推進員	国際交流推進員
2020年度	国際交流推進員	国際交流推進員	国際交流推進員	国際交流推進員
2021年度	国際交流推進員	国際交流推進員	国際交流推進員	国際交流推進員

■研修課題

受講者には、第2部実践編に参加するまでに以下の課題に取り組むよう求めた。

令和3年度災害時外国人支援活動講座

災害時外国人支援活動講座 研修課題

1. 外国人住民に関する基礎データ

(1) 外国人住民の状況

あなたの市町村にどのくらいの外国人が住んでいるか、また、地域資源や被災時の状況などについて予測してみましょう。

【基礎データ】

市町村名	人数・割合
人口（日本人+外国人）	(A)
外国人住民数（総数）	(B)
人口に占める外国人の割合	(B) / (A)

【外国人住民の内訳】

国籍名など	人数	主な在留資格
1	人	
2	人	
3	人	
4	人	
5	人	
6	人	
7	人	

※上位のいくつかの言語で、どのくらいの外国人住民数をカバーできるかも確認しておきましょう。

【外国人住民が参画している地域活動など】

団体名など	主な活動内容	災害時における連携

(2) 被災及び避難状況の予測

【あなたの市町村の被害想定】

「地域防災計画」や地域の「ハザードマップ」等を見て、「南海トラフ地震」が発生した場合のあなたの市町村の被害想定を確認してみましょう。

※何パターンかの想定がある場合は、一番被害が大きいものを選んでください。

※これは被害を意識してもらうために調べてもらうものです。あなたの市町村の資料の中から調べられた範囲でご記入ください。（地域によって記載がない項目もあります。）

あなたの市町村の想定震度及び津波等の浸水深	
想定死者数	
想定避難者数	
外国人避難者数（避難者数×外国人％）	
指定避難所数	
その他、外国人住民が避難しそうな場所	具体的な場所も書いておけるといいですね ・ ・ ・

2. あなたの市町村の避難所利用者登録票の様式を確認してください。多言語対応しているかも確認してください。

第1部参加者アンケート 集計結果

参加者数:60名 回答数:26件 回収率:38.3%

質問1:回答者の所属

1. 行政職員	20(76.9%)
2. 国際交流協会職員	3(11.5%)
3. 市町村社会福祉協議会職員	0 (0.0%)
4. 民間・NPO団体等	4(15.4%)

質問2: この講座を何で知りましたか

1. 県からの講座の紹介メール	20(76.9%)
2. 県のホームページ・Facebookをみて	3(11.5%)
3. 講座の案内チラシをみて	2(0.77%)
4. TABOネットの案内をみて	0 (0.0%)
5. 知人からの紹介	1(0.38%)
6. その他	1(0.38%)

質問3: 第1部知識編の全体の内容はいかがでしたか。

1. 大変有意義だった	13(50.0%)
2. 有意義だった	12(46.2%)
3. 普通	2(0.77%)
4. あまりよくなかった	0 (0.0%)
5. よくなかった	0 (0.0%)

質問4:「大規模災害時の外国人支援に関する基礎知識」(動画1)はいかがでしたか。

1. よく理解できた	16(61.5%)
2. 理解できた	10(38.4%)
3. あまり理解できなかった	1(0.38%)
4. 理解できなかった	0 (0.0%)

質問5:『多文化防災ガイドの活用の仕方』(動画2)はいかがでしたか。

1. よく理解できた	11(42.3%)
2. 理解できた	16(61.5%)
3. あまり理解できなかった	0 (0.0%)
4. 理解できなかった	0 (0.0%)

質問6:「愛知県災害多言語支援センターについて」(動画3)はいかがでしたか。

1. よく理解できた	7(26.9%)
2. 理解できた	20(76.9%)
3. あまり理解できなかった	0 (0.0%)
4. 理解できなかった	0 (0.0%)

質問7:事例紹介:岡山県総社市の報告(動画4)はいかがでしたか。

1. よく理解できた	6(23.1%)
2. 理解できた	21(80.8%)
3. あまり理解できなかった	0 (0.0%)
4. 理解できなかった	0 (0.0%)

質問8:事例紹介:小牧市の報告(動画5)はいかがでしたか。

1. よく理解できた	10(38.4%)
2. 理解できた	17(65.4%)
3. あまり理解できなかった	0 (0.0%)
4. 理解できなかった	0 (0.0%)

質問9:受講以前に「多文化防災ガイド」について知っていましたか。

1. 知っていた	9(34.6%)
2. 知ってはいたが、内容までは知らなかった	12(46.2%)
3. あることを知らなかった	6(23.1%)

質問10: 第1部全体について、ご感想をお聞かせください。(抜粋)

- 基礎的知識から現場での対応、行政の取組を一連で知ることができ、有意義な研修でした。
- 市の国際交流を担当しているが、災害時の外国人住民支援に関しては、知識が浅く、馴染みのない分野であったため、講座を通じて知識が身につき、大変有意義な講座だった。
- 今回初めて災害時の外国人に特化した研修を受講し、初めて知ることが多く今後の参考となる事項ばかりであった。特に、講義動画4は、外国人の話を外国人当事者から直接聞く初めての機会だった。その中で紹介された外国人避難者とのトラブル事例は、過去に参加した他の研修でも聞いたが、今回の研修で外国人の行動に対し今まで自分が抱いていた印象が変わった。改めて双方向から話を聞くことが大事だと感じた。
- ストック情報量と質の個別差異、双方向交流による相互理解や信頼関係が避難所運営のカギになることなど、納得することが多かった。日常の訓練における学習や地域生活での協働の重要性を感じた。多言語コミュニケーションツールとしての『「翻訳」の目的は避難者に「安心」を届けること』は、シンプルで分かりやすい翻訳上の留意点だと思った。災害に関わる各段階で、平時の準備の重要性を再確認できた。
- 在住外国人の災害減災への対応は、いろいろな取り組みや便利なツールが発信されているが、情報を発信したい側(行政や、避難所の運営をする自主防災会)、受け取る方(在住外国人)の双方がそういったものがあると理解している方が活用が広がると感じた。事前の周知や啓発が大切だと感じた。
- 災害時外国人支援活動において市内外国人の現状把握や外国人の特性について今以上に知る必要があると感じた。具体的な事例紹介や訓練の様子などを見て学んだことを、本市の災害時外国人支援活動の訓練の参考にしたいと思う。
- 外国人の方にも支援される側ではなく、支援する側になっていただくための取り組みが必要だと、改めて思った。
- ストック情報がないとフロー情報を理解できないということがよくわかった。フロー情報だけを翻訳していないかなど、情報提供について見直しを図りたいと思う。
- 様々な視点が大切であることがリアルに伝えられ、理解を深めることができた。ストック情報を共有したり、共通理解を促すことは、外国人に限らず、広く市民への周知や、行政と民間事業者との協働にも必要なことだと感じた。予算編成や議会開催に向けた繁忙期と重なり、受講を躊躇した部分がありましたが、大変ためになる講義を聞けることができ、このような機会をいただけたことに感謝している。

第1部知識編のまとめ

第1部知識編には合計60名が申し込み、各自講義動画を視聴して講座に参加した。そのうち、28名が第1部知識編のみの参加である。講義動画5本の再生回数は全て60回を超えており、参加者が期間中に視聴できたことが窺える。

参加者からのアンケートは26件の回答を得た。講義全体の評価は「大変有意義だった(50%)」「有意義だった(46.2%)」と非常に高かった(質問3)。また、それぞれの講義動画に対する評価も「よく理解できた」「理解できた」という回答がほとんどで、よい評価を得られている(質問4～8)。第1部についての感想を求めた質問10では、「基礎的知識から現場での対応、行政の取組を一連で知ることができ、有意義な研修でした」という回答があり、第1部の企画意図が参加者にしっかり届いていたと思われる。さらに、「フロー情報だけを翻訳しているのではないかなど、情報提供について見直しを図りたい」や「市内外国人の現状把握や外国人の特性について今以上に知る必要があると感じた」という感想があり、講義動画の視聴という形式であっても、講義の内容を自身の市町の状況や取り組みをと照らし合わせ、今後の取り組みを考えるきっかけとなった様子が見られた。

また、2018年に作成し公開されている、愛知県の「多文化防災ガイド」について尋ねた質問9では、「あることを知らなかった(23.1%)」「人が多く、あることを「知ってはいたが、内容までは知らなかった(46.2%)」人も半数近くに上った。活用を広げるために、今後も周知が必要だと思われる。

3)第2部 実践編

■日時

第1回 令和4年2月4日(金)13時30分～15時30分

第2回 令和4年3月4日(火)13時30分～15時30分

■開催方法

オンラインワーキンググループ(Zoom)

■参加者

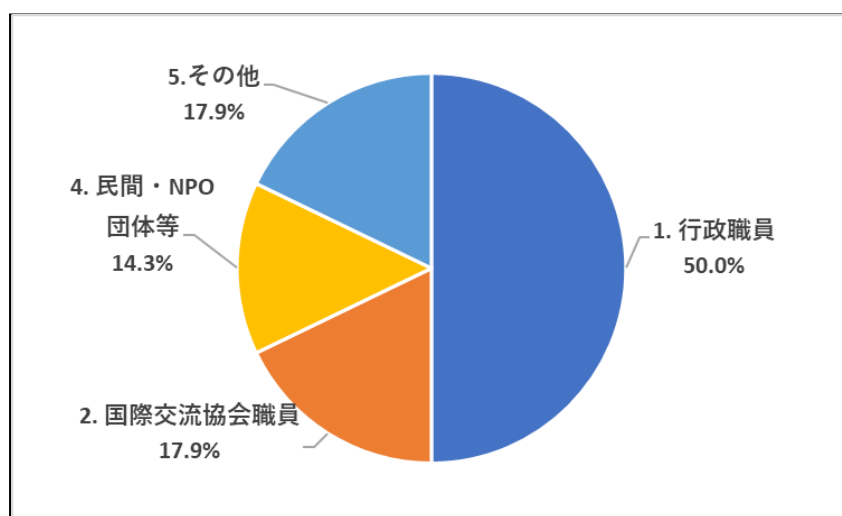
第1回...4名 (欠席者1名)

第2回...24名 (欠席者4名) *KATCHネットワークの取材有

[参加者内訳]

分類	人数	割合
1. 行政職員	14	50.0%
2. 国際交流協会職員	5	17.9%
3. 市町村社会福祉協議会職員	0	0.0%
4. 民間・NPO団体等	4	14.3%
5. その他	5	17.9%

* その他内訳...大学関係者、病院関係者、日本語学校関係者、個人



■プログラム

1. 開会あいさつ
2. 第1部の振り返りと、避難所生活の実際
(多文化防災ネットワーク愛知・名古屋 椿 佳代)
3. 自己紹介と各市町の状況の共有
4. 実践ワーク
 - 多言語表示シート、避難者登録票の実践ワークと説明
(多文化防災ネットワーク愛知・名古屋 長尾晴香)
 - 「やさしい日本語」の説明と実践ワーク
(多文化防災ネットワーク愛知・名古屋 安藤郁美)
5. まとめ
6. 質疑応答
7. 閉会あいさつ

■講座の様子



第2部参加者アンケート 集計結果

参加者数:28名 回答数:18件 回収率:64.2%

質問1:回答者の所属

1. 行政職員	8(44.4%)
2. 国際交流協会職員	5(27.8%)
3. 市町村社会福祉協議会職員	0 (0.0%)
4. 民間・NPO団体等	4(22.2%)
5.その他	1 (5.6%)

質問2:参加した日程

第1回 2月4日(金)	3(16.7%)
第2回 3月4日(金)	15(83.3%)

質問3:第2部実践編の全体の内容はいかがでしたか。

1. 大変有意義だった	10(55.6%)
2. 有意義だった	5(27.8%)
3. 普通	3(16.7%)
4. あまりよくなかった	0 (0.0%)
5. よくなかった	0 (0.0%)

質問4:「多言語表示シート・避難者登録票」の実践はいかがでしたか。

1. 大変参考になった	12(66.7%)
2. 参考になった	5(27.8%)
3. 普通	1 (5.6%)
4. あまり参考にならなかった	0 (0.0%)
5. 参考にならなかった	0 (0.0%)

[評価の理由](抜粋)

- 便利なツールがあっても使いこなすには慣れが必要であることが体感できた。
- 5分間で多言語表示シートを使って掲示物を作る課題で、「知っている」と「できる」の違いを体験した。サイトのことも多言語表示シート等のことも知っていたが、やってみると意外に緊張した。
- 見たことはあったが、利用したことはなく、使い方すらわからない現実に危機感を持って、練習をしようと思った。
- 避難者登録票については、他自治体と共通する箇所が多く、共通認識及び課題をグループ内で共有できたので参考になりました。
- ネットで以前検索したが、不明な点を今回理解できた。
- 避難所の登録者票の内容をじっくりと見たのは初めて。それぞれのできることで協力して、避難者全員で避難所運営をすることが、利用者登録票に表れていた。避難者登録票の簡易化、多言語化は必要。

質問5:「やさしい日本語」の実践はいかがでしたか。

1. 大変参考になった	8(44.4%)
2. 参考になった	8(44.4%)
3. 普通	2(11.1%)
4. あまり参考にならなかった	0(0%)
5. 参考にならなかった	0(0%)

[評価の理由](抜粋)

- いざ簡易かつ的確に訳そうとすると難しいことが実感できた。
- 何を伝えるかを最優先で考えようとしたが、「安否情報の公開・非公開」の解釈でつまづいた。意味を伝えるのではなく、機能を果たす(行動を起こさせる)情報発信を考えると、やさしいにほんごでの解釈を一段階踏んだのち、発信や翻訳につなげるのが有効だとよく理解できた。
- やさしい日本語に正解はなく、伝える力の重要性を知ることができた。
- 人によって受け取り方が違うことがよくわかり、日本人同士であっても注意すべきことだと実感した。
- 意義が十分に分かったが、実際に使うとなると、正解がないだけに、何回もの実践が必要だと思う。
- 防災用語に限らず行政の使用用語は旧態依然として日本人にも分かりにくい。

- 以前受けた「やさしい日本語」講座と比べて物足りなかった。

質問6: 今後の参考とするため、Zoomを活用した今回の講座の進行について、

よかった点、悪かった点を率直にお聞かせください。(抜粋)

[よかった点]

- 画面共有を利用したワークショップの手法が面白かった。
- 各ルームへの移動がスムーズで、ストレスがなかった
- 参加者の発言を引き出したり、会をスムーズにするために、進行役の方の役割がとても大きいと思った。上手に全員を参加させていただきとてもよかった。
- 途中で間が開くことなく円滑に進行されていたので、安心して視聴することができました。

[悪かった点]

- 私の使用機器が原因か、音声に難点があった。
- 講座終盤に差し掛かったところで、こちらの機器の不具合により強制退出となってしまった。その後復帰できなかったのも、急な機器のトラブルに対処できないのが、オンラインの難しい点だと感じた。
- グループワークは対面の方が活発に行えると感じた。

質問7: 講座全体に関してご意見、また今後講座で取り上げてほしい内容があればお

聞かせください。(抜粋)

- 時間が限られている中で、第1部として各自で視聴する時間を設けてくださったことで、大変有意義な第2部を受けることができた。全国の様々なオンライン講座・セミナーで導入してほしいと感じる。
- 来年度も対面で開催があれば、参加したいと思う。
- 言葉のユニバーサルデザインを検討してほしい。
- 現場で実行している地域の自主防災会の皆さんを交えて勉強会が出来るとういと思う。多言語表示シートや避難者登録票は町内会や自主防災会が使うことになるため。地域の実態を知ることが防災減災につながると信じてやまない。

第2部実践編のまとめ

第2部実践編は当初、対面のワークショップを予定していたが、愛知県に「まん延防止等重点措置」が実施されたことを受け、Zoomを用いたオンラインワークショップに変更した。2月4日と3月4日の2回実施し、33名の参加申込者のうち、合わせて28名が参加した。1回目の参加者が少ないのは、開催日が参加申込の締切(1月28日)に近く、それまでに第1部知識編をすべて受講することが難しいと判断されたからではないかと考えている。

2つの実践ワークについての評価は、どちらも高かった(質問4、5)。1つ目の実践ワークは自治体国際化協会が公開している災害時多言語表示シートと、多言語の避難者登録票に関するものである。2つ目は「やさしい日本語」に関するものである。どちらにおいても、実際にツールを使ってみる時間、「やさしい日本語」への言い換えを考える時間を取り、短い時間の中で今の自分がどれほど使いこなすことができるかを体感してもらう機会を設けた。評価の理由の記述からは、参加者は実際にやってみることで難しさを感じ、平時から使いこなせるように準備しておくことの大切さを感じたことが窺える。

また、質問6では講座の進行について感想を求めた。本講座では、ブレイクアウトセッションの機能を利用してグループ活動をする際に、TABOネットメンバーを各グループに進行役としてひとりずつ配置した。質問6の回答を見ると、このことがグループ内での進行や意見交換に非常により効果をもたらしていたことがわかる。また、「避難者登録票については、他自治体と共通する箇所が多く、共通認識及び課題をグループ内で共有できたので参考になった(質問4)」という記述もあり、グループを同じ属性の人でわけたこと(行政職員のグループ、国際交流協会のグループなど)にも一定の効果があったように思う。

3 今後に向けて

本講座は約150分の第1部知識編、120分の第2部実践編から成るボリュームの大きなものとなったが、受講者アンケートを見る限り、多くの方から意義のある機会だったと評価をいただくことができた。以下に、今年度の講座の成果と課題をまとめる。

[成果]

- 昨年度報告書の提案を踏まえ、対象者を災害時の外国人次対応の体制づくりを担う人々（自治体職員、国際交流協会職員、社会福祉協議会職員）としたことによって、災害時の参加者の役割に沿った内容の講座を開催することができた。第2部実践編においても、同じ立場の人でグループを作成したことが、共通の問題点に気づききっかけとなっており、効果的であった。
- 実際にツールを使ってみる、やってみるワークを通して、平時からの準備や慣れしておくことの重要性を理解してもらうことができた。

[課題]

- 対象者を「市町村自治体職員、市町国際交流協会職員、市町村社会福祉協議会職員など」に絞って募集を行ったが、社会福祉協議会職員の参加はほとんどなかった。参加者の多くが「県からの講座の紹介メール」を見て講座を知ったことから（第1部参加者アンケート質問2）、次年度は社会福祉協議会にもメール等で周知をする必要がある。
- 第1部の参加者アンケートにおいて、「予算編成や議会開催に向けた繁忙期と重なり、受講を躊躇した部分があった」という記述があった。繁忙期であることは参加を妨げる大きな理由になる。また、年度末では来年度事業の予算獲得が困難であり、この講座での気づきや学びを次年度の事業に活かすことが期待しづらい。さらに行政職員であれば、別部署に異動となる可能性もある。以上のことから、7月、8月など、学びを次年度の事業に活かすことができる時期に開催すべきである。

本講座は平成30年度から毎年実施されており、その実施報告書の中で「多文化防災」推進に向けた提案がなされている。しかし、この提案事項の多くが未だ実施に至っていないことから、今回4年目となる事業を終えるにあたり、これまでの提案を改めてまとめ、再度その実施に向けて提案したい。

＜多文化防災推進に向けた提案＞

* ()内は提案年度

* 下線部はこれまでに実現できた提案

1. 講座の継続開催について
 - 1.1. 本講座と同様の講座を今後も定期的・継続的に開催すること(H30、R1、R2)
 - 1.2. 7月・8月など、早い時期に開催すること(R3)
2. 講座の対象者について
 - 2.1. 災害時外国人対応に当たる可能性のあるすべての自治体職員等に講座への参加を呼びかけること(H30、R1)
 - 2.2. 避難所運営を担う地域住民にも講座への参加を呼びかけること(R2)
 - 2.3. 講座の主な対象を災害時外国人対応の体制づくりを担う人々(自治体職員、国際交流協会職員、社会福祉協議会職員)とし、参加者の役割に合わせた講座を開催すること(R2)
3. 「多文化防災ガイド」(H30作成)の周知・活用について
 - 3.1. 「多文化防災ガイド」についてメディア等を通じて十分に周知すること(H30)
 - 3.2. 「多文化防災ガイド」とその活用方法を広く周知すること(R1)
 - 3.3. 「多文化防災ガイド」を活用した講座等を企画・実施すること(H30)
 - 3.4. 「多文化防災ガイド」の避難所運営訓練等での活用方法について提案すること(H30、R1)
4. 本講座以外の機会作り
 - 4.1. 本講座を基礎研修とし、その後の実践的な訓練や具体的な改善等を議論する場作りにつなげること(H30、R1)
 - 4.2. 本講座の内容に加え、避難所での外国人対応などの体験を通して、必要なものの整備や、連携等を議論するステップアップ講座を開催すること(R1)
5. 外国人県民に向けた取り組み
 - 5.1. 本講座を外国人も参加しやすいようにアレンジし、開催すること(H30、R1)

5.2. 「多文化防災ガイド」を外国人にもわかりやすいようにアレンジすること(H30、R1)

6. 各市町村への働きかけ

6.1. 本講座をモデルとし、各市町村主催での開催を働きかけること(H30、R1)

6.2. 県および各市町村の既存の防災に関わる研修に「多文化防災」の要素を取り入れるように 働きかけること(R2)

7. これまでの講座の効果の測定

7.1. 各自治体が行っている防災研修や支援者の養成研修の中で「多文化防災」の視点がどの程度取り入れられているかを調査すること(R2)

7.2. 「多文化防災ガイド」の避難所運営訓練等での活用事例を確認し、ホームページやSNSで広めること(H30、R1)

(参考)

・平成30年度報告書...https://www.pref.aichi.jp/uploaded/life/336402_1346033_misc.pdf

・令和元年度報告書...https://www.pref.aichi.jp/uploaded/life/336402_1346035_misc.pdf

・令和2年度報告書...https://www.pref.aichi.jp/uploaded/life/336402_1346038_misc.pdf

中でも、7に挙げた県内自治体の防災研修や取り組みの中で「多文化防災」が取り入れられているかどうか調査することは、本事業の効果を測定し、県内の取り組みの現状を知るために非常に意味がある。その調査結果をもとに、本講座の位置づけや、市町村への働きかけのあり方、新しい取り組みの必要性を考えることができれば、愛知県の「多文化防災」を推進する大きな一歩となるだろう。

2022年3月

愛知県 災害時外国人支援活動講座開催業務＜報告書＞

多文化防災ネットワーク愛知・名古屋